

光珠内周辺における木本類の開花時期と落葉時期

開本孝昭

北国の樹木は、遅い春を待ちかねたように、一斉に思い思いの装いをこらした花をつける。私達は花が大きく色の美しいものに目をひかれるが、春早く咲くドロノキ、ハンノキ類、カンバ類、ハルニレ等は花群が小さく色彩も地味なためあまり気づかない場合が多い。

どのような樹木の花も自然界の機構にあわせ決してなげやりな咲き方はしない。春早く咲く花は昆虫も少ないので、比較的風媒花が多い。そこで美しく着かざって昆虫の来訪を待つ必要もなく、それよりいかにして多くの花粉が雌花まで飛べるかの方が重大である。これらの花は、葉が繁ってから咲いたのでは花粉が柱頭まで運ばれるチャンスを妨げられるから、開葉する前に咲かなければならない。虫媒花でもコブシのように早く咲く花もあるが、早くふ化する甲虫類によって運ばれる。このように、花は毎年同じように無造作に咲いているようであるが、決してそうではなく環境に適応していることがわかる。

また、秋の落葉にしても北国の寒い冬をそのままの形で生育していたのでは生きのびれないであろう。北国のほとんどの樹木は休眠することによって生きのびることができる。その前段階として紅葉が始まる。美しい紅葉をつくるのは、樹木の色素と天候の作用がお互いに重要な役目を果たしている。身にしみるような秋冷が訪れたあとの晴天の日は紅葉が一段と美しい。秋になると葉緑素の生産が衰える。ニレ、カンバ類、イタヤカエデ等のような黄変するものはカロチノイドの色素がつくられるからであり、クリ、カシワ等のような褐変するものはカロチノイドの沈積の上に傷ついたり死んだりした細胞が酸化するためである。また、ヤマモミジ、ヤマウルシ、ヌルデのように燃えるような赤い色になるのはアントシアニンがつくられるためである。

このように毎年くりかえされる開花、落葉もその年の気象、生育環境、土壌、樹齢等により変化が見られる。例えば、エゾヤマザクラの開花は1973年は満開が5月10日であったが1974年は5月17日と一週間も遅く、キタコブシも1974年は前年より3日程遅れている。駄足ではあるが、カッコウの鳴く声で、私達は春の訪れを感じ、農家の人達は昔から農作物の種まき時期の基準にしてきたが、1973年は5月21日、1974年は5月15日で気候とは反対に早くなっている。これはこちらの気候とは関係なく、渡り鳥であるから越冬地の気候によってその時期が変わるのではないかと推測される。

このように花ごよみをつけておくとその年の気候も推定できるし、緑化樹として使用する場合、時期的な花の配列を考えるうえでも参考になる。また、秋の落葉時期、紅葉の色を知るとは風致計画をたてるうえにも必要である。そこで一つの参考資料として、一部の樹種につい

て調査してみた。

開花期

前記したように開花時期はその年により、また生育環境により変化が見られる。調査樹種のほとんどの花木類は当場の緑化樹展示園内のものを対象にし、その他の樹種は試験場周辺の植栽木あるいは天然林内の一定の樹木を選定し、4日～7日毎に巡回調査した。観察記載用式は農林省林業試験場彙報第31号の植物季節調査を準用した。それによると、開花期は蕾または花序の現われた初期より満開となり落下するまでをいい、具体的には次のとおりである。

過程	初開	破蕾	満開	落花
変化の割合	10%	20%	50%	80%

そこで、今回の調査は開花始まりは20%の時、盛りは50%の時、終りは80%の時として記載した。図-1の中の●印は最盛期を示したが、ほとんどのものが●印の前後2～3日が盛花と見てさしつかえない。また、花の終期は80%の落花を基準にしたが、ハマナス、ムクゲ、ハナアカシア等のようにいつまでもだらだらと咲くものもあり、10月初旬の調査ではタニウツギ、ボケ、キンギンボク、クリ等のようにくらく咲きしているようなものも多く見られた。参考として花の色ものせた。本来ならこれ等の調査結果とその年の気象調査とを対比しながら考察してゆけば良いのであるが、単年度のみの開花調査では気象との関係をとらえることは困難なので、これらは継続調査した時にゆずる。霜についてみると、1974年の晩霜は5月7日で、初霜は10月22日であった。

調査対象樹種の中で特に開花が早いのはカバノキ科のセイヨウハシバミ、ケヤマハンノキで4月中旬頃開花し、続いてヤナギ類である。その他4月中に開花するものをあげると、ハルニレ、カツラ、ルブルムカエデ、エゾムラサキツツジ、ナニワズ、カラマツ等がある。参考までに草本類をあげると、4月30日現在でエゾリユウキンカ、ミズバショウ、ニリンソウ、エゾエンゴサク、ヒマラヤユキノシタが花盛りで、一番早いフクジュソウは4月25日頃で咲き終わっている。今回の調査樹種中、55%が4月から5月に花が咲き、北国の春がいかに短い期間におしよせてくるかを物語っている。

紅葉の色および落葉期

紅葉^ニというとき一般に葉の色が紅色になることを連想するが、黄変するもの褐変するもの等を含め落葉期に葉の色が変化する現象を紅葉と呼んでいる。この紅葉の色については、色彩感覚に乏しい筆者が細かく分けるには問題があるので、大まかに紅色、黄色、黄褐色、赤褐色、および、暗緑色の5区分して表-1にまとめた。その中で特に美しいものはゴシック体にした。

紅葉の色は同一樹種であっても生育環境によって色が異なる場合がある。例えば、カツラは一般に黄変するが、やせた土壤や鉢植のものは淡紅色となる場合が多い。ルブルムカエデでは別名ベニカエデともいわれるように本来朱紅色になるのであるが、植栽されている場所により紅色と黄色が半分ずつでたり黄色の方が強かったりする例が良く見られる。同じカエデ科のヤ

マモミジにおいても同様の傾向が見られ、他の樹種でも多少は現われる。特に植栽木の場合、一般に乾燥の強い場所では、その樹木本来の紅葉の色がでてこない場合が多いようである。

落葉時期は樹種によってはとらえにくいものも多いので、10月20日および10月25日を基準にして、これより早いものと遅いものに分けた(表-2)。落葉時期はその年の紅葉期に入って

表-1 紅葉の色彩

葉の色	樹 種 名
紅 色	ヤマウルシ、ツタウルシ、ヌルデ、ツリバナ、マユミ、コマユミ、ニシキギ、ミヤマカマズミ、ヨーロッパカンボク、ムシカリ、クサギ、ナナカマド、エゾヤマザクラ、チシマザクラ、シウリザクラ、ベニシタン、ニワウメ、スモモ、ナツツバキ、ビヨウヤナギ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、ルブルムカエデ、ミズギ、アメリカハナミズギ、ヤマボウシ、サラサドウダンツツジ、エゾムラサキツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、ヤマブドウ
赤褐色	メタセコイア、ブナ、クリ、ミズナラ、カシワ、コアマチャ、コデマリ、プラタナス、メギ、クロフネツツジ、ホオノキ、ノリウツギ、ニガキ、クサギ、センノキ
黄 色	カラマツ、グイマツ、イチヨウ、シラカンバ、シダレカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバ、カツラ、ヒッコリー、ネグンドカエデ、イタヤカエデ、ヨーロッパクロボブ、コシアブラ、アオハダ、エゴノキ、アカバナシモツケ、キンバコデマリ、シロバナトキワツツジ、キレンゲツツジ
黄褐色	アサダ、サワシバ、ヒメヤシャブシ、ツノハシバミ、セイヨウハシバミ、キハダ、ヤチダモ、アオダモ、ハシドイ、レンギョウ、ギンドロ、ドロノキ、ウンリョウヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギ、ヤマグワ、オニクルミ、ヒメクルミ、カシクルミ、キンギンボク、ニワトコ、クロミノウグイスカグラ、セイヨウミザクラ、ボケ、ユスラウメ、ハマナス、ホザキシモツケ、カマツカ、カタスギ、エゾノコリンゴ、ウツギ、ハコネウツギ、アジサイ、タニウツギ、キタコブシ、タラノキ、アキグミ、フジ、ウメモドキ、ムラサキシキブ、ハクウンボク、アオハダ、トチノキ、シナノキ、オオバボダイジュ、アメリカリンデン、ハルニレ、フクレンニレケヤキ、ケヤキ
暗褐色	ニセアカシア、バラソルアカシア、ネムノキ、ケヤマハンノキ、グルチノーザハンノキ

注：ゴシック体の樹種は紅葉の特に美しいもの。

表-2 落葉の時期

1974年調査

落葉時期	樹 種 名
10月20日までに7割以上落ちてしまうもの	ヤチダモ、オニクルミ、ヒメクルミ、クロクルミ、キハダ、ダケカンバ、アサダ、カツラ、クロミノウグイスカグラ、カンボク、ニワトコ、シナノキ、オヒョウ、シウリザクラ、ハシドイ、改良ボブ
10月25日現在で7割以上つけているもの	カラマツ、ユリノキ、カシクルミ、ライラック、ヒメヤシャブシ、シダレカンバ、セイヨウハシバミ、ツノハシバミ、ハンノキ類、アキグミ、ナツグミ、キササゲ、アズキナシ、ナナカマド、カマツカ、ボケ、オオシマザクラ、セイヨウミザクラ、コウバイ、コデマリ、ノイバラ、ユスラウメ、ウメモドキ、ヨーロッパカンボク、ガマズミ、キンギンボク、アジサイ、タニウツギ、ハコネウツギ、マロニエ、バラソルアカシア、ニセアカシア、ケヤキ、フクレンニレケヤキ、コシアブラ、ムクゲ、バッコヤナギ、オノエヤナギ、ヤマグワ

からの温度変化や風によって大きな影響を受ける。この調査を行っている期間でも10月31日から11月1日（初雪）にかけての強風で一夜にして大部分のものが落葉している。ここでは開花調査対象樹種以外のものもとりあげているが、ここに記載されていないこれ等の樹種は10月20日から25日位の間に落葉したと見て良い。

今回、紅葉の時期については特に調査していないが、一番早いのはヤマウルシで9月20日頃から色づき始め、続いてヌルデ、ヤマブドウ、グイマツが始まる。一般に10月初旬でほとんどのものが色づき、ニセアカシア、ネムノキ、イヌエンジュ等のマメ科では緑色が強く、落葉直前に少し脱色される程度である。一般に広葉樹では紅葉時期の遅い樹種は紅葉が余り美しくないものが多いようである。

この調査は1974年の単年度のみのものであり、特に開花時期については連年行う必要性を感じる。なお、東京大学北海道演習林では、これらの調査について昭和5年から詳細に行われ印刷物にもなっている。全道各地でこのようなデータを積み重ねれば、樹木の花前線図もでき農業気象との関連もつかめるであろう。この資料が緑化あるいは風致計画上少しでも役に立てば幸いである。

(樹芸樹木科)

